

令和3年度大阪府大阪市病院連絡会結果（概要）

開催日時：①12月14日 北部基本保健医療圏
②12月6日 西部基本保健医療圏
③12月7日 東部基本保健医療圏
④12月16日 南部基本保健医療圏
場所：いずれもオンライン開催

出席状況等一覧（別紙）

1 地域医療構想の推進に関する意見

○地域医療構想は平時の医療提供体制について検討されてきたが、今後は新興感染症等有事の場合の医療提供体制も考慮した地域医療構想の推進が必要ではないか。

2 病院の将来プランに対し意見のあった病院とその回答

（1） 公立・公的病院

●大阪市立大学医学部附属病院：

（病院への意見）

- ・旧住吉市民病院の跡地に誘致する新病院について、南部地域には高齢者の急性期を担う病院が多く存在するため、認知症患者に対応するような病院でお願いしてきた。地域の意見を聞きながら、計画を進めていただきたい。

（2） その他、民間病院等

●医誠会病院・城東中央病院：

（病院への意見）

- ・大阪府からの文書による指導内容に対する検討状況についての説明が不十分なため、今後、継続しての協議が必要ではないか。

（病院への意見）

- ・高度急性期病床を増やすというのでは地域医療構想の意味がなくなってしまう。
- ・北区では各病院がダウンサイジングを考えている中、移転し、大規模病院を開設することには納得できない。

（病院の回答）

- ・北区は人口の増加が見込まれ、高齢者等の医療需要が今後20年間にわたり増加すると見込まれること、救急に関しては、区外から北区に救急患者が搬送されることが想定されることから、救急医療や急性期病床としての役割を担っていきたい。

- ・大阪市内は交通網が発達しており、同じ医療圏内での移転のため、地域住民への医療提供体制に大きな影響はなく最良の選択と考える。

(病院への意見)

- ・急性期一般入院料 1 という急性期病棟の中に回復期の病床の割合が一定あるということが考えられており、急性期の病棟の中に回復期の患者がいても、急性期ではないのか。

(病院の回答)

- ・急性期一般入院料 1 であっても、転院前の患者はすでに回復期の状況と考えている。

出席状況等一覧

(別紙)

保健所名	公立・公的・民間等	対象 ^{※1} 病院数 (A)	出席病院数 (B)	参加率 (B)/(A)	病院プラン ^{※2}		病院連絡会欠席病院
					提出病院数 (C)	提出率 (C)/(A)	
北部基本医療圏	公立	2	2	100.0%	2	100.0%	分野病院、東淀川病院、大阪治験病院、成仁会病院、真心会病院
	公的	4	4	100.0%	4	100.0%	
	民間等	31	26	83.9%	31	100.0%	
	合計	37	32	86.5%	37	100.0%	
西部基本医療圏	公立	0	0	0.0%	0	0.0%	首藤病院、大場内科病院、大阪労働衛生センター第一病院、苗加病院、
	公的	5	5	100.0%	5	100.0%	
	民間等	22	18	81.8%	22	100.0%	
	合計	27	23	85.2%	27	100.0%	
東部基本医療圏	公立	1	1	100.0%	1	100.0%	高津病院 ^{※3} 、原田病院、飯島病院、西下胃腸病院 ^{※3} 、公道会病院、中本病院、東成病院、西眼科病院、内藤病院、新大阪病院、生野愛和病院、生野病院、優心会厚生病院、関目病院、すみれ病院
	公的	5	5	100.0%	5	100.0%	
	民間等	57	42	73.7%	55	96.5%	
	合計	63	48	76.2%	61	96.8%	
南部基本医療圏	公立	1	1	100.0%	1	100.0%	奥野病院、南大阪小児リハビリテーション病院、西中病院、松井記念病院 ^{※3} 、愛寿記念病院、杏林記念病院、津守病院、まちだ胃腸病院、浦上病院
	公的	2	2	100.0%	2	100.0%	
	民間等	45	36	80.0%	44	97.8%	
	合計	48	39	81.3%	47	97.9%	
合計	公立	4	4	100.0%	4	100.0%	
	公的	16	16	100.0%	16	100.0%	
	民間等	155	122	78.7%	152	98.1%	
	合計	175	142	81.1%	172	98.3%	

※1：病院連絡会の対象は、病床機能報告対象病院

※2：新公立病院改革プランにかかる補足調査、公的医療機関等2025プラン、将来に向けた病院のプランに関する調査

※3：病院プラン調査未提出病院